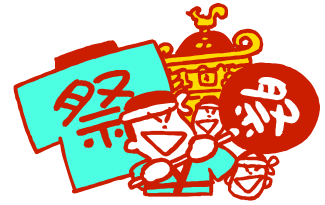


寅さん歩 その11

江戸・東京の祭-52

(江戸らしい祭-23)



平野 武宏

「寅さん歩」をはじめとお読みになる方もいらっしゃると思いますので、その誕生談をお話します。ウォーキングにはまり、全国のウォーキング大会に参加していた頃、妻の友人から全国を旅する映画「男はつらいよ」の寅さんのようだと、「平野寅次郎」と命名されました。大会参加の記録を書いていましたので、ペンネームに使わせていただきました。

2012年8月東京に移住し、都内を歩き回り、当時TV放映の地井武男氏の「ちいさん歩」を真似て「寅さん歩」と名付け、県外会員として会報やホームページに投稿した所、「ひろば」に特別コーナーをいただき、連載することになりました。地井武男氏は2012年6月に亡くなりましたので、因縁を感じます。「よくテーマが見つかりますね」と言われますが、道を歩いていると、新しいテーマが見つかるものです。

「江戸・東京の祭シリーズ」も、まだまだ見ていない祭があります。1年に一度や2年に一度、中には3年待たないと来ない祭もあります。一度見たいと思っていましたが、なかなか予定が合わずにいた「木場の角乗」が「第34回江東区民まつり」でお披露目があると道端の掲示板で知り、平成28年(2016年)10月16日「木場公園」に出向きました。

[木場の角乗]

木場公園専用池 最寄駅 東京メトロ東西線 木場駅

江東区木場の地名はかつては材木業関連の倉庫や貯木場の多いことに由来とのこと。「木場の角乗」はそんな木場ならではの「江東区の民俗芸能」です。木場で働く筏師が鳶口一つで太く大きな丸太を自由に操り、筏を組む仕事の中から生まれたと言われます。地名の由来を後世に伝え、伝統文化を残すため、江東区民まつりでは毎年木場公園の専用池で「木場の角乗」を行います。演技に合わせた「葛西囃子」の速いテンポで水の浮かぶ角材を自由に操る見事の演技でした。若者、女性、子供の演技もあり、次の世代に引き継がれている様子も伺えました。技の出来栄えは熟練者に及びませんが、失敗しながら懸命に

演じる姿に大きな拍手が与えられていました。



写真上左はお囃子衆
写真右は池の中央に乗り出し
演技が始まります。

写真下左は「尾張名古屋の金の鯨」これが大変難しい技で若者はなかなか足
が上がりませんでした。写真下右は「淀の川瀬の水車」と説明あり。



親子共演



相乗り



女性による下駄乗り お見事！

写真右は梯子乗り、これも大変難しい技です。



写真上左は梯子乗りの後の三人の演技、上右は締め演技の三宝乗りです。

写真右はおまけの余興、5人乗りで相手を落とします。2人目が落ちる瞬間を捉えました。シャッターチャンスを外し、掲載出来ませんが、扇子乗り、から傘乗り、目隠し乗り、手離し乗り、戻り駕籠乗りもありました。

オリンピック会場が話題の江東区、「江東区で競技が行われ、皆さんにこの「木場角乗」を見ていただきたい。応援してください」との区長の言葉が印象に残りました。



次回はお江戸の閻魔大王-4です。

平野 寅次郎 拝